掲載日：平成24年8月6日

第5回ボランティア活動in南相馬市

未だ復旧されない道路。当時のまま時間が止まっているかのよう

津波で流されてきた船舶
海まで500m以上

一緒に作業した
レビッシュさんと

30℃を超える気温の中、広い敷地を草刈り機で一日がかりで刈っていきましたが、まだまだ終わらない。周りを見ればどこもかしこも草が伸び放題で、終わりが見えない状態。
圧倒的に物も人も足りない状況でした。

ボランティア活動も今回で5回目。今回は南相馬市の小高地区という一時帰宅がようやく解除された場所に行ってきました。小高は南相馬の中では最も原発に近い場所にあり、沿岸部はもちろん、かつては住居があったであろう場所には人っ子一人居ない状況でした。時が1年前で止まってしまった地区であり、片づけた痕跡はありますが、未だ放置された車や陸に打ち捨てられた船舶、未補修の道路が存在します。

ボランティア内容は民家の敷地内にある田畑の草刈です。住民は帰宅は許されているものの、寝泊まりは禁止されており、家主不在のまま作業はスタートしました。草刈り機で3反（300坪）の広さを刈るという事で依頼されたものの、全部の敷地を処理する事は出来ませんでした。こういった依頼が今はメインで、人も、草刈り機も足りない状況だそうです。

現在宮城や岩手などは累計6万人以上のボランティアの人々が訪れたそうですが、福島に至ってはまだ7000人に満たない程度の参加しかないそうです。どこか「これから復興していこう！！」という雰囲気でもなく、どちらかといえば「まずは原発がどうにかならないと・・・」という感じが伝わって来ました。それでも早く家に帰りたいというニーズ、願いがある以上、そのお手伝いをこれからも何らかの形でして